

## 国立唐津海上技術学校 生徒・教員を対象とした勉強会を開催

日本船主協会では、平成 20 年 7 月に人材確保タスクフォースを結成し、優秀な日本人船員確保のための広報活動を展開しております。

今般、平成 30 年 7 月 12 日(木)に、同タスクフォース内の「内航ワーキンググループ (WG)」のメンバーが中心となり、国立唐津海上技術学校(佐賀県)において、内航海運に関する勉強会を開催いたしました。

本勉強会は、海技教育機構の学校の教員や生徒を対象に、内航海運の現状や運航及び荷役の実務等について講演を行い、生徒指導や学習に資することを主な目的としています。

8 回目(生徒対象の勉強会としては 4 回目)の開催となった今回は、内航 WG の木下座長(鶴見サンマリン)のほか、WG メンバー会社より尾形氏(NS ユナイテッド内航海運)、真治氏(栗林商船)、松林氏、吉田氏(三洋海運)、花田氏(鶴見サンマリン)、阿南氏、栗林氏(日本マリン)が国立唐津海上技術学校を訪問しました。

生徒対象の勉強会では、木下座長が内航海運の現状を紹介した後、真治氏、吉田氏、花田氏が、RORO 船・石灰石船・タンカーなどの各社運航船やその荷役について、実体験を交えつつ熱心に講演を行いました。唐津校の若手 OB(花田氏)を含む現場の説明に、生徒や教員も真剣に聞き入っていました。講演後、生徒からは「各社が求める船員の資質について」や「自動運航技術が与える雇用への影響について」といった就職や将来を見据えた質問が挙がり、講師がそれに対応するとともに、内航 WG としても生徒の抱える思いや不安を直に知ることができました。

続いて、教員対象の勉強会では、唐津校の入試状況や進路状況について情報を共有した後、船社の情報を生徒に上手く伝える方策や、就職後の短期離職を防ぐための手立てについて、踏み込んだ意見交換を行いました。

以上のとおり、今回は、内航海運の実務の説明に加え、教員の方々との意見交換をすることもでき、生徒指導や学習に資する非常に有意義な取組となりました。加えて、学校や生徒の様子を実際に目で確かめる貴重な機会でもありました。人材確保タスクフォースでは、今後も関係機関と協力し、幅広い活動を継続していくこととしています。



生徒対象勉強会の様子



奥左より花田氏、木下氏、真治氏、吉田氏(講師)



質疑応答の様子



教員対象勉強会の様子